

がん社会 を診る

中川 恵一

毎年5月31日は、世界保健機関（WHO）が定める「世界禁煙デー」で、今年で29回目を迎えます。厚生労働省は5月31日～6月6日を「禁煙週間」と定めて、普及啓発をしています。

今年のテーマは「2020年、受動喫煙のない社会を目指して」たばこの煙から子ども達をまもろう」で、31日には、都内の丸の内オアゾにシンガー・ソングライターの平原綾香さん、パラリンピアン の佐藤真海さんらを招いて、記念イベントが開かれます。

子どもの喫煙は特に問題で、中学生から吸えば、肺がんによる死亡率は30倍になります。がん対策推進基本計画でも「未成年者の喫煙をなくす」ことを目標としています。

たばこの問題は受動喫煙です。たとえば家族に喫煙者がいれば、たばこを吸わない人でも煙にさらされます。同じ



イラスト・中村 久美

「喫煙＝肺がん」の落とし穴

家で暮らす夫婦では、夫が1日で1箱以上吸えば、たばこを吸わない妻も肺腺がんの危険は約2倍になるとの研究があります。子どもがいれば、がん以外にもぜんそくや中耳炎などのリスクを増やします。たばこのパッケージには、喫煙がもたらす健康被害に関する表示が義務付けられています。がんについては「喫煙は、あなたにとって肺がんの原因の一つとなります」という文言があるだけです。

しかし、たばこの煙に含まれる数十種類もの発がん物質は血液に溶けて全身に運ばれます。大腸がんや、乳がん、子宮体がんなどを除くほぼすべての部位のがんを増やすと考えられます。

日本人男性の場合、喫煙によって肺がんにかかるリスクは4・8倍になりますが、喉頭がんでは5・5倍、膀胱（ぼうこう）などの尿路系のがんでも5・4倍になります。

パッケージの表示でも、肺がんに特定せずに「喫煙はがんの原因となる」に改めるべきでしょう。ヘビースモーカーの人が、肺がん検診ばかり受けて、他のがんで命を落とす悲劇も珍しくありません。

人気キャスターの小倉智昭さんが司会を務める情報番組を膀胱がんで休養し、手術を終えて復帰したと報じられています。因果関係はよくわかりませんが、過去にヘビースモーカーだったともいわれています。

世界禁煙デーをきっかけに、みんなで禁煙に挑戦しよう。（東京大学病院准教授）